

ループリック（はく検電器を用いた静電誘導実験）

○パフォーマンス課題の内容

はく検電器を用いて、さまざまな設定の静電誘導の実験に取り組む。その結果を踏まえ、電場内における自由電子の移動の様子を論理的に説明する。

達成度 評価の ポイント	評価の観点	レベル3 (十分に満足)	レベル2 (おおむね満足)	レベル1 (努力を要する)	評価の資料
はく検電器の構造や実験操作の意味を理解し、実験器具を適切に扱うことができたか。	【観察・実験の技能】	各実験操作の目的を理解し、はく検電器を手際よく扱って実験に取り組むことができる。	はく検電器を正しく扱って、実験に取り組むことができる。	はく検電器の扱い方に誤りが見られるが、実験に取り組むことができる。	授業者の記録 実験プリント
はく検電器を用いた実験を通じて、はくの開閉と電荷の移動を関連付けて論理的に考え、表現することができたか。	【思考・判断・表現】	既習の内容を組み合わせ、はくの開閉と電荷の移動を的確に図示しながら実験結果を考察することができている。 (クーロンの法則や電気量保存則等と関連付けて考察できている場合は「レベル4」とし、より高く評価する。)	電荷の移動とはくの開閉を関連付けて、実験結果を考察できている。	電荷の移動、はくの開閉について観察考察には至らないが、実験結果を記録している。	授業者の記録 実験プリント
自分の意見を積極的に述べたり、他の生徒の意見を聞いたりして、意欲的に討議できているか。	【関心・意欲・態度】	自分の意見や疑問を積極的に述べるとともに、他の生徒の意見も聞きながら考察を深めようとしている。	グループの討議に参加し、自分の意見や疑問を話している。	自分の意見や疑問を話すことよりも、他の生徒の考えを聞くことを優先している。	授業者の記録 実験プリント

※レベル1に到達していない場合は、はく検電器の扱い方と観察される現象から分かることについて、個別の指導等を通して学び直す機会を設ける。また、生徒の特性に配慮して、討議への関わり方について助言する。